

Argentina

アルヘンティーナ

No. 65



プエルト・マデロ、ブエノスアイレス (2012年11月撮影、水上駐亜日本大使ご提供)

一般社団法人 日本アルゼンチン協会 会報

2014年12月

フリオ・ゴヤの世界 (フリオ E. ゴヤ).....2

あれから50年 (島崎 長次郎).....3

第3回サッカー親善交流大会開催
(加藤 勝巳).....5

アルゼンチン政治経済短信 (荒尾 保一).....6

Resumen en castellano9

協会の活動案内
～当協会主催「タンゴ音楽の集い」
～次年度開催予定9

協会の活動報告
～7月31日 (木)
「日本アルゼンチン・タンゴ連盟」
発足記念パーティー.....10

～9月3日 (水)
フェデリコ・コスター等書記官離日10

～9月16日 (火)
フェリペ・ガルデラ新公使表敬挨拶10

～9月28日 (日)
第3回日本・アルゼンチン親善交流
サッカー大会10

～10月29日 (水)
フェスティバル ラティノアメリカーノ2014
に協賛10

～11月9日 (日)
第52回アルゼンチン共和国杯 (東京競馬場)10

～11月14日 (金)
第25回「タンゴ音楽の集い」.....11

トピックス

～11月16日～24日
IBSA ブラインドサッカー世界選手権2014年
開催.....11

フリオ・ゴヤの世界

フリオ E. ゴヤ

私の旅は長い道のりでした。沢山の海を越え、川を渡り、山を越え、森を越え、谷間を越えた大変な道のり。その経験は私の理想や、概念や、感情という大きな意味合いを変えるほどでした。両親のふるさとへの興味を実際のところ、この眼で確かめてみようとは心は高鳴ったものです。

沖縄に着いてみると、都市は現代を反映して変わっていく印象で探していた姿ではなかったが、田舎へ行くと、確かに母が話していた風景に出合えて、私の片言の日本語でも伝わる温かな人々の熱い繋がりを感じることができました。両親の育った環境、文化を知ること親しみを覚えて、創作環境に良い感触をもちました。

実際沖縄に暮らすのは、大変な事で、母国アルゼンチンから距離を置くと、その場所を離れ、内面にその場所を創造することになります。母国の現実を手放す事は、人生に哀愁の色を加えました。そして同時に全ての事柄への距離は、自分の芸術言語を保ちながら、己の存在と孤独を確かめ、補う作業を伴いました。故に豊かなイメージを繋ぐ表現へ開放を生み出してきましたと考えています。

私の作品は、鉄の素材を用いた、面と面を合わせた視覚的立体感で成り立つ世界です。南米の色合いとして用いる原色の着彩は私のテーマカラーで、彫刻の表現基礎となった人物からの意味合いを持っていて、男性は（青）、女性は（赤）として存在しています。形は人体を抽象化したものからきています。



題名：月と太陽のロマンス (Romance de Sol y Luna)

サイズ (m) : 7.5H × 9W × 6D

素材：鉄、亜鉛、ステンレス、ペイント

設置場所：沖縄県立美術館

新しい世界への探究心は、私の人生の生き方の延長であり、日常の中でのインスピレーションをつかんで作品に生まれ変わります。

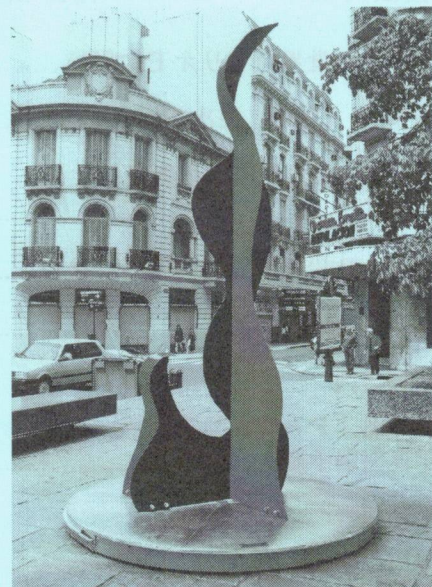
例えば沖縄の海の珊瑚との遭遇、自然の形と造形が彫刻に新鮮な風のように影響してイメージが生まれて新しい作品が生まれます。そしてその生まれた作品が自分の一部となり、その地の一部となって行くのは、面白い相乗効果を生んでいます。色彩も、珊瑚作品だけは海中を感じる事を意識して、いつもの男性、女性の意味合いをつけずに混色で空間に漂う淡い柔らかさを持つ色彩で表現の幅を持つこととなりました。



題名：Grulla (鶴)

サイズ (m) : 4H × 1.8W × 1.2D 素材：鉄、ペイント

設置場所：7月9日大通、ブエノスアイレス市



題名：Brisa de Mar (海風よ)

サイズ (m) : 3H × 1.2W × 0.8D 素材：鉄、ペイント

設置場所：サン・マルティン文化センター、ブエノスアイレス市

日本とアルゼンチンの感覚が楽しく合わさった作品が、漢字作品です。日本語がまだ良く話せない時期に漢字をシンプルに形として視覚的に把握していました。書道家が紙に筆で文字を描くように、私は、鉄の素材をリボンのように使い空中に漢字を描いてみた事で新たな作品としての命が流れだしました。それは、日本をアルゼンチンの感覚で捉えるところが、漢字の概念を超える力を生み出す事となりました。又、日本人側からしてみれば、なじみの深い漢字と言うモチーフが立体として自由な姿に発展することは、面白みのあるところであり、古くからの漢字の成り立ちを示す象形文字と重ねて作品を楽しんで鑑賞しているようです。

アルゼンチンには、日本とアルゼンチンの友好100周年記念野外彫刻作品が在ります。日本においては、半永久的に野外彫刻が設置されています。ここ沖縄では、公共施設において多数の作品を設置、代表作は、沖縄県立美術館の野外彫刻で、全長約9m、高さ約8m、幅9m、奥行き5mが中庭に設置され、子供達が上がって遊んでいる光景がみられます。最新作は、私

の両親の出身地である西原新庁舎の外壁面 幅45メートル、高さ7メートル50のレリーフを完成させました。

まだまだ母国で作品を発表したいと願っています。そしてこれからもグローバルな活躍を続けようと思志を新たにしております。

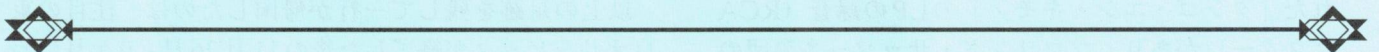
(フリオ・エドワード・ゴヤ：彫刻家)

註：金属板を使ったアート作品を制作するアルゼンチン生まれの彫刻家ゴヤ・フリオさんは、沖縄西原町出身の両親を持つ。ブエノスアイレス国立芸術学校大学院で彫刻を学んだ後、両親の故郷を見たいと1985年来沖。以来沖縄で創作活動を続けて今年で29年。

現在は、豊見城市に「アトリエGOYA工房」を構えて、県内外で精力的に活動しています。

沖縄県立博物館・美術館中庭のオブジェ、西原町新庁舎の壁面レリーフ、名桜大学や国立劇場おきなわ等沖縄県内で作品に接することが出来ます。

「ロダン大賞展」美ヶ原高原美術館賞（長崎）、「フジサンケイ・ビエンナーレ現代国際彫刻展」優秀賞（長野）、「沖縄タイムス芸術選賞」奨励賞（沖縄）などを受賞、その作品は現代彫刻の分野で高く評価されています。



あれから50年

—「東京オリンピック」と「日本のタンゴ南米ツアー」

島崎 長次郎

昨2013年の9月、ブエノスアイレスで開催された第125次IOC総会で、2020年夏季オリンピックの開催地がわが東京に決定したのは欣快この上もないことだった。そして、今年は前回（1964年）の東京オリンピックから数えて満50年になるという。戦災の廃墟の中から雄雄しく立ち上げ、紺碧の空に響かせた高らかなファンファーレは、躍進する当時の日本の象徴だった。10月1日の新幹線の開業にひきつづき、世界94ヶ国参加のもとに開かれた10月10日の開会式。数々の名勝負、感動の名場面は数え切れず、50年経った今でもそれらは鮮明に思い出される。私たち昭和を生きてきたものにとって、これはまさに銘記すべきモニュメントとなった。

そんな1964（昭和39）年。わが国のタンゴ界にとってももうひとつ忘れ難い重要な出来事があった。

日本を代表する名流楽団、早川真平と「オルケスタ・ティピカ東京」の一行15名が、初めての海外遠征で、9ヶ月に渡る南米縦断の演奏ツアーを敢行し、日本のタンゴの存在を広く知らしめたのだった。

昭和39年2月23日、羽田空港（カナディアン・パシフィック）を出発したメンバーは次のとおりだった。

◆団長（総括：指揮）早川 真平

○バンドネオン＝

岡本 昭 岩見 和男 関塚 大八郎 平野 洋輔

○バイオリン＝

志賀 清 片山 拓三 家野 洋一 河内 敏昭

○ピアノ＝刀根 研二

○ベース＝福島 敏夫

○歌＝藤沢 嵐子 阿保 郁夫 柚木 秀子

* マネージャー

中西 義郎（雑誌「中南米音楽」社主）計15名。

一行は途中のパンクーパー経由でメキシコに入り、ここで一泊の後にブエノスアイレスの空港に降り立ったが、目にしたのは予想だにしていなかった出迎えの人々の多さだった。これには旅なれた中西氏もびっくりし、“ともかく大混雑でした。日本人学校の人々、日本人会のメンバー、大使館の人、それに現地のタン

ゴの演奏家たちなど、ある程度は予想していたものの、これほどの大歓迎にあうとは…、感激の連続で、うれしいというより先にただ呆然という気持ちでした。なにはともあれ、まずは記者会見。次にテレビの予告編2本を矢継ぎ早にビデオ撮りし、大急ぎでいったんブエノスアイレスを離れることにした”と、中西氏は述べていた。

その後の9ヶ月間の行動の概略については、メンバーの一人でバイオリンを担当していた河内敏昭さんの言などを中心にまとめると、およそ次のようになっている。

<南米での9ヶ月間にわたる活動の概要>

◇ブエノスアイレスでの記者会見後、列車（一昼夜）にて「メンドーサ」に行く。

2日間にわたり、レストランとダンス・ホールに出演。

◇ブエノスアイレスに帰着後、ほぼ2ヶ月の間、テレビ（週1）、ラジオ（週2）、夜は連続でミロンガに出演するなど、ここでは多忙をきわめ、月曜日はブエノスでは仕事ができない仕組みになっているため、ウルグアイのモンテビデオに出かけ、体育館や劇場で演奏し、翌日に帰ってまた仕事、といった具合で体調を崩すメンバーもいた。

◇ブエノスアイレスでは、日本でもその後リリースされた「タンゴ・エン・キモノ」のLPの録音（RCAビクター）があり、フロリンド・サッソーネ楽団のバイオリンの名手ロベルト・ギサードやカルロス・アルナイスなど数名がこれを応援してくれた。

◇当地で嬉しかったのは、いろいろなアーティストがホテルを訪問してくれ、得るものも少なくなかったが、かつて日本にも来たことのあるバンドネオンのフェルナンド・テルの手配で、ギターのリベルト・グレラが目の前で絶妙な演奏をみせてくれたことが最も感動的だったと、ギターも手がける河内さんは述懐していた。

◇その後“ヒーラ”（バスによる地方巡業）に出て、南はコモドロ、リバダビア、北はロサリオなどに行く。道中がなかなか厳しかったけれど、ロサリオでは、バイオリンの名手エルビーノ・バルダロが一行を自宅に呼んで歓迎してくれた。



サン・マルティン広場における「オルケスタ・ティピカー行」（1964年）

◇残念だったのは、仕事に追われて現地の楽団の演奏をじっくり聴く機会が少なかったことだったが、そんな中でミロンガの楽団の交代時に、ダイナミックなサウンドを誇るホセ・パッソの楽団が聴けたのはよかったし、“ヒーラ”の折に、エクトル・バレラ楽団の切れのある演奏に接したのも印象に残っている。いづれもリズムの取り方やダイナミックな弾き方に学ぶべきものが多く、おおいに勉強になった。

◇この後に、当初の計画ではブラジルへ渡り、そこからスペインに回る予定だったが、折りしものブラジルの革命に遭遇。急遽予定を変更し、アンデスを越えてチリのサンチャゴに飛び、ここで3週間の仕事をこなし、次にペルーで約2週間の演奏を行った。

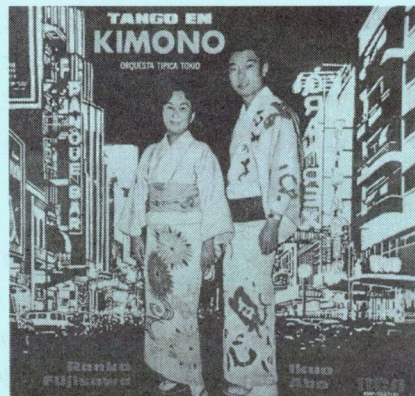
◇その後は、エクアドルのキトで1週間、さらにコロンビアに入ったが、ここでは街にしみじみとタンゴが流れ、ガルデル終焉の国柄をあらためて感じた。なお、ブエノスアイレスに続いて、ここでも記念にLP1枚を録音した。

◇最後の訪問国はメキシコで、ここではステージの演奏に、ダンス・ホールへの出演などが加わり、約2週間結構忙しいときを過ごし、ここを旅の最後にして一路懐かしの祖国、日本に向かった。

以上の足跡を残して一行が帰国したのは、注目の東京オリンピックが終了した後の11月26日。9ヶ月にわたる旅をあらためて振り返ると、聴衆を沸かせ、足跡を記した国は、アルゼンチンを筆頭にウルグアイ、チリ、ペルー、コロンビア、エクアドル、そしてメキシコの実に7ヶ国に及んだ。

今振り返ると、一行15名のうち、当の早川真平をはじめ、刀根研二、藤沢嵐子などすでに9名が亡くなられ、ただただ寂寥の念に耐え難いものがあるが、日本のタンゴ界の有志たちが果たした空前ともいえるこの快挙は、当時の東京オリンピックとともにいつまでも私たちの記憶に留めおきたいものと思う。

（しまざき ちょうじろう：
日本タンゴ・アカデミー名誉会長）



ブエノス・アイレス録音のLP（現地と日本で同時発売）

第3回サッカー親善交流大会開催

一次世代を担う子供たちの国際交流の経験の場として

加藤 勝巳

今回で三回目となる小学生主体のサッカー交流大会は、9月28日（日）三菱養和会巣鴨スポーツセンター・サッカーグラウンドで、秋晴れの清々しい空気の中で、フェリペ・ガルデラ駐日アルゼンチン共和国大使館公使の開会宣言のもと11:30開始した。



ガルデラ公使のオープニング・スピーチ

参加チームは、長田小学校チーム、ボカジュニアJAPANチーム、三菱養和会チームの3チーム総当たり戦で行われ、三菱養和会チームが勝利。長田小学校チームは、ボカジュニアJAPANチームとの戦いで3-5で敗れるも、スピードある白熱の戦いを演じた。

また、子供たちの交流のため、上記3チーム参加選手から、混合A及びBチームを作成しての試合、並びに大人部門のアルゼンチン選抜VS日本選抜チームの対抗戦も行った。

大人チームは、例年以上に観る者を興奮させた汗握る大接戦。PK戦覚悟も視野によぎった後半終了間際、



選手宣誓



参加選手全員で

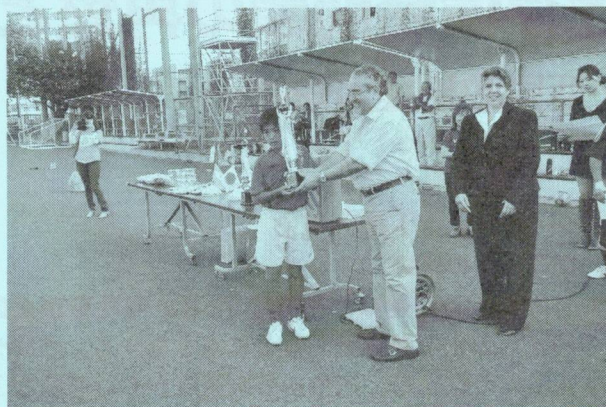
アルゼンチン選抜が1点をもぎ取り、1-0でアルゼンチン選抜チームが接戦を制した。

茨城県の境町からバス2台約50名で巣鴨に乗り込んだ長田小学校チーム、境町関係者、校長先生はじめ小学校の先生方、父兄関係者はその熱戦に最大級の心温まる応援を送っていました。

快晴の青空に恵まれたこともあり、選手、観戦者でグラウンドには200人前後が集まり、ワイ・ガヤの雰囲気。アルゼンチン料理（エンパナーダ、チョリパン）弁当が大好評で、選手の原動力になったことも間違いなし。

アルゼンチン大使館より、着任して間もない（8月末来日）ガルデラ新公使夫妻、ダ・ポンテ書記官、ジョシー長谷川スポーツ担当官が参列され、熱い応援を送りながら楽しいひと時を子供たちと共に過ごされました。

主催者アルゼンチン大使館からは、優勝トロフィー他プレゼントの提供を受けました。



優勝カップ授与



記念品授与

この親善交流サッカー大会は、第1回目は2010年にアルゼンチン建国200周年の記念事業の一つとして開催しました。

アルゼンチン共和国との交流が今年で81年目となる境町立長田小学校は、国際社会で活躍できる人材の育成と自国文化や異文化の理解を深めるというテーマを一つ掲げており、毎年6月初旬に、アルゼンチン大使夫妻他関係者、境町町長他関係者、当協会関係者を迎えて、生徒が計画、生徒が主催する恒例行事、「アルゼンチンの日のつどい」を催している。

第1回目大会を実施後、長田小学校生徒の再度大会の実施を熱望する声に接し、当協会として、何とか大会を継続して生徒の熱望に応えたいと思い、隔年ごとに実施として、今回3回目の開催になった次第。

大会の趣旨をご理解して頂きご支援くださっております境町は勿論のこと、サッカー場利用に際しての(株)三菱商事からの協賛、また長田小学校、三菱養和会のご協力に対し心から深謝申し上げる次第です。

1853年(嘉永6年)ペリー浦賀に来航。この一行にモンテネグロというアルゼンチン人がおり、彼は、対



公使と長田小チーム

応した幕府側役人の一人、関宿藩の右筆(書記役)野本作次郎に世話になり、親交を深めた。

80年後の1933年(昭和8年)、当時の駐日アルゼンチン代理公使モンテネグロ氏と野本作兵衛氏が面会、孫同氏の親交が始まった。

翌年1934年、モンテネグロ公使は野本氏の生地境町を訪問、1939年モンテネグロ会館(地域の青年研修所)及び一部地域電灯敷設工事資金を寄贈。

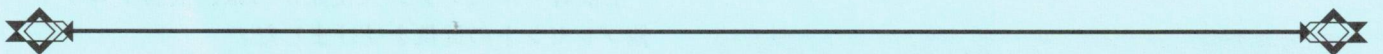
長田小学校には1941年離日まで7年間、毎年モンテネグロ賞(奨学金)を贈っている。

現在、駐日アルゼンチン大使は毎年初春に、長田小学校6年生を大使館に招待して親交を深めている。

毎年6月、1~6年生まで、スペイン語で挨拶して、スペイン語で歌い、大使夫妻を迎える児童生徒の顔は極めて明るい。

次世代を担う子供たちが体験し、心に残った印象は、必ずや将来の国際交流、相互理解につながるものと信じて、当協会の活動に一同微力ながら努めている次第です。

(かとう かつみ: 当協会常務理事)



残存債務問題の再燃と政治の動き

— 亜国政治経済短信 —

荒尾 保一

1. ホールドアウト債の返済

(1) 問題発生の経緯

亜国債務返済問題は、2001年12月、亜政府が亜国債の利払い停止を発表したことに端を発する。当時デフォルトした債務は、国債や外国政府からの借款など合計1,300億ドル超とされていた。

このうち、2004年12月に、民間保有の国債の元本総額810億ドルについて、元本の約75%をカットする再編案が提示され、翌2005年に、対象債務保有者の76%がこの提案に同意した。その後、政府は、残る債権者と協議を行い、2010年にデフォルト国債のうち121億ドルについて再編の合意が成立した。この2回

の交渉により、デフォルトした国債の92.4%の再編が成立し、デフォルト状態の債務残高は、未払利息を含め、約150億ドルとなった。これがいわゆるホールドアウト債である。

(2) 残存債務に関する米国裁判所の判決

上記ホールドアウト債のうち、15億ドルを保有する米国のヘッジファンドElliot managementの子会社NML Capital社が全額の返済を求めてニューヨーク地裁に提訴した。2012年同地裁Thomas Griesa判事は、複数の債権者に対し返済の優先劣後を設けないとするパリパス（ラテン語のpari passu）条項を適用し、亜政府が再編に応じた債権者に支払を続けるのであれば、債務再編に応じなかった債権者の保有債務についても、その全額を支払わなければならないとの判決を下した。また、亜政府が提訴債権者への支払を行わないのであれば、米国の金融機関は、再編に応じた債権者への支払手続きを行ってはならないとした。

これに対し、亜政府は、米国連邦最高裁判所に下級審の判決を見直すよう上訴したが、本年6月最高裁は上訴を認めないとの決定を下し、ニューヨーク地裁の判決が確定した。

フェルナンデス大統領は、今後交渉は続けるがこの判決には従わない、ファンドのゆすりに負けるわけにはゆかない、再編に応じた債権者への支払は継続すると演説した。債務再編の際、亜政府は、「将来より有利な条件での債務返済は行わない」というRUFO条項を取り決めているので、提訴債権者への全額返済を行うことはできない。このため、キシロフ経財相がニューヨークで地裁及び債権者との交渉にあたったが、和解をするには至らなかった。

亜政府の既往債権者への利払は、米国メロン銀行を通じて行われていた。亜政府は、6月末に支払期限の来る債務の支払に充てるため、5.39億ドルをメロン銀行に入金したが、同行は、地裁判決に従い、支払手続きを行わなかった。この支払期限については、30日間の猶予期間があったが、7月末に至っても、支払手続きは行われず、支払原資があるにも拘らず支払されないという「テクニカルデフォルト」に陥った。

なお、上記判決の確定後、ホールドアウト債を有する他の債権者から、債権全額の支払を求める提訴が続き、亜政府の代理人の地裁宛書簡によれば、25件、請求額合計47億ドルの訴訟が継続中であるとのことである。

(3) 亜政府の対応

亜政府は、上記の事態を受け、再編債権者への支払を継続するため、当該債務の支払地をアルゼンチンに変更する法案を議会に提出した。この法案は、9月に可決成立した。これにより、信託受託社としてのメロン銀行は解任され、亜国ナシオン信託銀行が新信託受

託会社に指定された。亜政府は、同行に対し16億ドルを振り込んだが、支払が開始されたか否かについては、報道されていない。

亜政府は、米国裁判所の決定は、同国の主権を侵害しているとしてハーグの国際裁判所に提訴した。米政府は、これに対し、「国際司法裁判所は、亜の債務問題を扱うのに適切な場だとは考えていない」として、亜政府が債務者との交渉を続けるよう求めた。また、亜政府は、同国の主張を、朝日新聞やフィナンシャルタイムズ紙などに全面広告で掲載した。

9月に、国連総会において、亜提案の「国家債務再編のプロセスの法的枠組みに関する多国間協定」についての決議案が賛成多数で可決され、フェルナンデス大統領は、外交上の大きな成功であると述べた。また、国連人権理事会は、ハゲタカファンドは、国家による人権向上の取り組みに負の影響を与え、自国の債務の再編を巡り、いかなる権利も他国側に妨害されてはならないとする決議案を賛成多数で可決した。

2. パリクラブ債の返済開始

亜国延滞債務のうち、公的債務について、5月、亜政府とパリクラブとの間で合意に達した。全延滞債務は97億ドル（2014年4月末時点）で、初回支払は11.5億ドル、うち6.5億ドルが本年7月末までに支払われ、残額は2015年5月末までに支払うこととなっている。

パリクラブ最大の債権国は約3割を占めるドイツで、日本は約2割で第2位となっている。パリクラブの債務返済問題は、2001年以降各国の信用供与の大きな阻害要因となっていただけに、この問題の進展により、日本を含むパリクラブメンバー国からの融資への道が開かれる端緒となることが期待される。

3. 世界首脳の訪亜

(1) 習近平中国主席

7月18日から20日にかけて、習近平中国国家主席、王毅外交部長など政府、金融機関、企業関係者など約280名、記者約200名が中南米訪問の一環としてアルゼンチンを公式訪問した。この会合で、両国間の全面的な戦略的パートナーシップを構築する共同宣言が署名された。

サンタクルス州の水力発電用ダム建設のための約47億ドルの融資やベルグラノー貨物線の全面改修のための約21億ドルの借款などが合意された。また、中国商務部と亜中銀は、110億ドル相当の通貨スワップに合意した。

また、フェルナンデス大統領は、中国が主導する発展途上国支援のための「新開発銀行」への強い期待を表明したと伝えられている。習主席は、マクリ ブエノスアイレス市長とも会談をしている。

また、中国国際貿易促進委員会及び亜中商工会議所

共催の「2014年亜中企業家フォーラム」が開催され、中国企業家約200名、アルゼンチン企業家多数が参加した。この場で24の取引契約が結ばれた。

なお、これとは別に、2012年のオンセ駅での大事故以来刷新が行われてきたサルミエント線で使用される新車両が中国から輸入され、7月に、フェルナンデス大統領出席のもと導入式典が行われている。

(2) プーチン露大統領

7月12日、プーチンロシア大統領は、亜国を訪問し、大統領府でフェルナンデス大統領と会談した。この会談で、両国は、原子力協定始め5件の協定に署名した。フェルナンデス大統領は、グローバルな金融経済調整について、世界的なレベルでの改革が必要であるという点において意見が一致したと述べた。プーチン大統領は、両国は、国連やG20などの国際組織で実りある協力関係を結んでおり、また昨年には両国間の貿易は16%以上伸びたと両国間の関係の進展を説明した。同日夜の晩餐会には、ムヒカ ウルグアイ大統領も出席している。

4. 大統領選のスケジュール

2期目のフェルナンデス大統領の任期は、2015年12月で終了する。アルゼンチンの憲法では、大統領の3選は禁止されているため、明年は新人候補者による選挙が行われる。9月に内務・運輸省選挙局が発表した大統領選挙の日程は、次の通りである。

- (i) 2015年6月10日 政党および政党連合の登録期限日
- (ii) 6月20日 大統領予備選挙候補者登録期限日
- (iii) 8月9日 予備選挙 (PASO)
- (iv) 10月25日 本選挙
- (v) 11月24日まで 決選投票

注：決選投票は、本選挙で、第1位の候補者が45%以上の投票を確保するか、40%以上で第2位の候補者との間で10%を超える差をつけることができなかった場合に実施される。

なお、世論調査機関 (Management & Fit 社) の本年9月時点での予想候補者の支持率は、次の通りである。

マサ下院議員 (反現政権 刷新連盟)	25,0%
シオリ ブエノスアイレス州知事 (現政権派 勝利のための戦線)	24,5%
マクリ ブエノスアイレス市長 (野党 共和国提案)	19,1%
ビーネル下院議員 (野党 UNEN 拡大戦線)	13,4%

5. 経済動向

2010年に9,1%、2011年に8,6%の高成長を記録したアルゼンチンのGDP成長率は、2012年0,9%、2013年2,9%と鈍化を示している。2014年1~3月期は△0,2%と落ち込んだ。この大きな要因は、民間消

費の減少で、2013年10~12月期△7,8%、2014年1~3月期△6,4%であった。また、輸出、輸入ともに経済活動全般の低迷を反映してマイナスとなっている。

鉱工業生産指数も、2014年1月から8月まで前年同月比1,2%~5,4%のマイナスである。

消費者物価指数は、物価指数の算定方法が改訂され、新しいCPI統計となったため、前年同月比が発表されないこととなっているが、2014年は、前月比で、1月3,6%、2月3,4%、3月2,6%、4月1,8%、5月1,4%、6月1,3%、7月1,4%、8月1,3%、9月1,4%の高い上昇率となっている。議会インフレ率 (一部の野党議員が発表している民間コンサルタント会社8社の推計を平均したインフレ率) は、9月で前年同月比41,6%と高い上昇率となっている。

このような高いインフレが続く中で、政府は、供給法の改正法案を議会に提出し、9月可決成立した。この改正法では、(i) 生産から流通に至るすべての段階における収益、参考価格及び最高、最低価格の設定、(ii) 財の生産の継続、最低生産量を含む生産義務の設定、(iii) 会計及び販売に関する書類の差し押さえ権限の承認、(iv) 最高1,000万ペソ (120万米ドル) の罰金及び90日間の営業停止と言う厳しい規制が行われることとなっている。

為替レートは、ペソ安が進行し、8月末には、公定レートが前年同月比48,2%のペソ安で、1ドル=8,40ペソとなっている。市中では、いわゆるブルーレートで取引がされており、9月末には1ドル=16ペソになったと言われている。

外貨準備残高は、8月末で、前月比3,83億ドル減の286,2億ドルとなった。

2014年1月~3月の国際収支は、貿易収支が前年同期比1,2億ドル減の8,05億ドルの黒字、所得収支が28,18億ドルの赤字となり、経常収支は33,04億ドルの赤字となった。

財政収支は、基礎的財政収支は黒字、総合収支は赤字という基調となっている。

以上のようにアルゼンチン経済は厳しい状況下にあるが、世界第2の埋蔵量を誇るシェールガスについて、シェブロン (米)、ヴィンターズル (独)、ペトロナス (マレーシア) などの大型投資計画が発表され、エネルギーの自給自足と外貨獲得の期待を抱かせている。また、その他の豊富な天然資源と農産物を基礎とする経済発展の要素は大きい。

12月5日には、5年ぶりに日亜経済合同委員会 (日本側代表 佐々木幹夫三菱商事相談役、亜側代表カルロス ベガ アルゼンチン商業会議所会頭) がブエノスアイレスで開かれ、両国経済界から約190名が参加し、資源開発問題や貿易問題等について活発な議論が行われた。これを契機として、日亜間の経済交流の活発化が期待される。

(あらお やすいち：当協会常務理事)

Resumen en castellano

Por Irene Gashu

El mundo de Julio Goya (p. 2)

Por Julio Eduardo Goya, escultor

Alejado de Argentina y viviendo en Okinawa, la tierra natal de mis padres, he podido dar rienda suelta a mi creatividad. Trabajo en metal. Utilizo los colores azul y rojo. Mi espíritu inquisitivo me ha llevado a descubrir nuevos mundos. Creo que mi sensibilidad nipo-argentina quedó bien reflejada en mis obras de “Kanji”.

Nota: Ganador de numerosos premios, sus obras se pueden apreciar en jardines y plazas de museos y otros edificios públicos de Argentina y Japón.

Han pasado 50 años (p. 3)

Por Chojiro Shimazaki

Han pasado 50 años desde las Olimpiadas de Tokio de 1964. En ese año, tuvo lugar otro acontecimiento memorable: Shimpei Hayakawa y 15 miembros de la Orquesta Típica Tokio realizaron una gira de 9 meses por Latinoamérica: Argentina, Uruguay, Chile, Perú, Colombia, Ecuador y México. Al llegar al aeropuerto de Bs.As., fueron recibidos por una gran multitud de gente. Esta gira sirvió para difundir ampliamente el tango de Japón.

Tercer Torneo Amistoso de Fútbol (p. 5)

Por Katsumi Kato

El pasado 28 de septiembre se realizó el Tercer Torneo Amistoso de Fútbol, patrocinado por la Embajada Argentina. Participaron 3 equipos: Escuela Primaria

Nagata, Boca Juniors Japan y Mitsubishi Yowakai, y 2 equipos de adultos. La ceremonia de apertura estuvo a cargo del Ministro Felipe Gardella de la Embajada. Unas 200 personas disfrutaron de empanadas y choripanes. Los lazos de amistad entre la Escuela Primaria Nagata y Argentina se iniciaron hace 81 años.

Deuda externa y noticias políticas (p. 6)

Por Yasuichi Arao

1) Fondos buitres: el juez neoyorquino, Thomas Griesa, dictaminó en 2012 que Argentina debía pagar la totalidad de los fondos buitres que no aceptaron la quita. EE.UU. amenazó con incautar los fondos destinados a los acreedores que aceptaron el canje. Argentina nombró a un nuevo agente fiduciario y presentó una demanda contra EE.UU. ante la Corte de La Haya. 2) Club de París: el gobierno argentino y el Club de París llegaron a un acuerdo en mayo. Argentina realizó el primer pago en julio y hará otro en mayo de 2015. 3) Visita de mandatarios: el Presidente de China, Xi Jinping y el Presidente de Rusia, Vladimir Putin, visitaron Argentina en julio. 4) Calendario electoral 2015: primarias el 9 de agosto, elecciones presidenciales el 25 de octubre, segunda vuelta el 24 de noviembre. 5) Tendencias económicas: la situación económica es difícil con el aumento de la inflación y la devaluación del peso. Por otra parte, las inversiones extranjeras en la explotación de yacimientos de gas de esquisto ofrecen un futuro prometedor.



協会の活動案内

～当協会主催「タンゴ音楽の集い」 一次年度開催予定

毎回好評の当協会主催「タンゴ音楽の集い」の次年度（平成27年）開催予定は次の通りです。

テーマ、詳細は決まり次第ご案内します。

第26回：3月20日（金）

第27回：6月19日（金）

第28回：10月16日（金）

場所は、これまで同様、新橋の当協会旧事務所隣の第2光和ビル「シンバシ・フォーラム」地下2階で、18:30開催予定です。



協会の活動案内

～7月31日(木)

「日本アルゼンチンタンゴ連盟」 (Federacion Japonesa De Tango Argentino) 発足記念パーティー

アルゼンチンタンゴの第二の故郷とまで言われる日本で、近年の大きな動きとして、アルゼンチンタンゴ・ダンスが再びブームとなってきています。

2003年ブエノスアイレスで、当時の市長音頭でアルゼンチンタンゴ・ダンス世界選手権大会を始めたことから世界中に大きな影響を与え、今や世界100都市で地区大会が行われ、東京でも2004年来、アジア大会が行われている状況。

このような中、アルゼンチンタンゴの更なる普及と健全な発展に貢献するため、当協会理事でもある飯塚久夫氏のご尽力のもと、4月1日付で、一般社団法人「日本アルゼンチンタンゴ連盟」が設立されました。

一般社団法人設立準備作業、手続きに当たっては、当協会荒尾、寺本、両常務理事が側面的に協力した。

その発足記念パーティーは、7月31日(木)赤坂のANAインターコンチネンタル・ホテルで、70名を超える参加者が集まり、17:30から、飯塚連盟会長のオープニング・スピーチ、当協会荒尾常務理事のスピーチと乾杯で始まり、盛大に催されました。

無形世界文化遺産のタンゴの更なる発展と普及に向けて、同連盟と当協会のコラボが期待される次第。



～9月3日(水) フェデリコ・コスタ 一等書記官離日

アルゼンチン大使館のフェデリコ・コスタ書記官が、約4年間の任務を終えて、この9月末離日されること

になった。同書記官には、当協会の行事に種々サポートを頂いたので、9月3日に送別の意を込めて昼食会に招き、当協会加藤・寺本両理事が対応した。

同書記官は、日本から新任地イスラエルのアルゼンチン大使館に移動された。

～9月16日(火) フェリペ・ガルデラ 新公使表敬挨拶

フェリペ・A・ガルデラ (Felipe A. Gardella) 新公使が8月末、旧任地北京から来日された。9月16日(火) 11:00当協会加藤・寺本両理事が表敬挨拶すると共に、9月28日の第3回サッカー親善交流大会に関して打ち合わせをさせて頂いた後、昼食を共にした。

～9月28日(日) 第3回日本・ アルゼンチン親善交流サッカー大会

素晴らしい秋晴れに恵まれ、青い空、清々しい空気の中で、5試合の熱戦が行われ、ピッチの選手は白熱の戦いで輝き、ギャラリーは例年以上に興奮させた戦いに拍手を送ったすばらしい大会となりました。

アルゼンチン大使館、茨城県境町、長田小学校、三菱商事、ボカジュニア JAPAN、三菱養和会、審判の方々のご支援、ご協力に対し深謝申し上げます。

詳しくは、本誌記事をご覧ください。

～10月29日(水) フェスティバル ラティノアメリカーノ2014 (チャリティーバザー) への協賛

例年恒例の(社)日本・ラテンアメリカ婦人協会主催のチャリティー・バザーが、例年と同会場(東京プリンスホテル)で開催された。

中南米・カリブ諸国の物産・民芸品の販売、ラテンアメリカの音楽、民族舞踊、歌の披露と中身濃く、大変な盛況ぶりでありました。

本年も、当協会として、アルゼンチン大使館宛チケット20枚分相当の協力を行った。

～11月9日(日) 第52回アルゼンチン 共和国杯(東京競馬場)

11月9日(日)府中の東京競馬場にて、第52回アルゼンチン共和国杯(重賞G-II)が開催されました。午前中の小雨から天候も回復し、28,000人の観衆が見守る中、15:40分にレースはスタートし、2番人気の



デジャン駐日アルゼンチン共和国大使より優勝馬の馬主に
カップ贈呈

「フェイムゲーム」が直線あざやかに抜け出し、この重賞レースを制覇しました。

レース終了後、ラウル・デジャン アルゼンチン共和国大使より優勝馬の馬主である（有）サンデーR代表に優勝カップが贈呈されました。

アルゼンチン共和国杯を記念して、全レース終了後、センターコートに於いて、タンゴショーが催され、平田耕治カルテットの素晴らしい演奏と、エンリケ&カロリーナの踊る情熱的なタンゴダンスは、集まった人を魅了した。

当協会より、藤田理事、渡部理事と共に元常務理事の鶴岡夫妻および会員の安田衣里嬢が出席されました。



センターコートでのタンゴショー

～11月14日（金） 第25回「タンゴ音楽の集い」

日本タンゴアカデミー会長、日本アルゼンチンタンゴ連盟会長で当協会理事でもある飯塚久夫氏によるサウンド・映像と解説トーク、今回は、今年度のテーマ「タンゴ映画で見るその歴史と音盤で聴く魅力を対比する」の最終回。

11月14日（金）18:30から、いつもと同じ場所、JR新橋駅前の当協会旧事務所隣、第2光和ビル「シンパシフォーラム」地下2階のホールに50名を超える参加者が集まり、飯塚久夫氏のいつもながらの名解説・トークに酔いしれた夕べであった。

圧巻だったカルロス・ガルデルの飛行機事故、最後の秘蔵映像。

リベルタ・ラマルケの美形、美声は忘れられない映像。ビルヒニア・ルーケの若さが魅力いっぱいに映し出された映像。

参加者は、アルゼンチンタンゴに心酔した夕べのひと時に浸り、帰路につかれたことでしょう。

トピックス

11月16日～24日 IBSAブラインドサッカー世界選手権 2014開催 (於：国立代々木競技場フットサルコート)

4年に一度開催される世界一決定戦で、今回アジアで初めての開催で、過去最大の12か国が参加して、パラリンピックの出場権がかかった重要な大会。

アジアからは日本、中国、韓国が出場、南米からはアルゼンチン、ブラジル、コロンビア、パラグアイ、アフリカからモロッコ、欧州からドイツ、フランス、スペイン、トルコと強豪ぞろい。

11月24日の決勝戦はアルゼンチンVSブラジル。前・後半25分ハーフ、計50分では勝敗つかず、延長戦（前・後半共に5分）に突入。惜しくも1点差でアルゼンチンが敗れ、ブラジル優勝。日本は6位だったが過去最高の成績。

決勝戦には、アルゼンチン大使館からダ・ポンテ一等書記官並びにジョシー長谷川スポーツ担当官が応援に参列して、大使館から貸与されたアルゼンチン旗4旗がひらめく下で熱い声援を送られ、大会を盛り上げられた。

バスケットとほぼ同じ程度の広さのピッチでのサッカー。スピード、迫力ともに満点で、視覚障がい者がアイマスクをしてプレイするサッカーとは思えないハラハラドキドキの50分は、確かに観衆を感動させた。

オリンピックと比較して日本のパラリンピックの人気度は、欧米先進国に比べてまだまだ低いと言われますが、これを契機に障がい者スポーツへの関心が深まることが期待されます。

当協会からも寺本常務理事、阿部事務局長他が観戦するとともに、会員の安田衣里さん（平成26年度ミスワールド日本代表コンテストで準ミス）が、公益財団法人日本ケアフィット教育機構のレポーターとして大会を取材されました。



協会ホームページの活用及び E-メール通信の件

1. ホームページ (URL:<http://www.argentina.jp>)

何らパスワードの入力は不要で、誰でも自由にホームページ内情報にアクセス出来ますので、ご活用ください。

当協会では「協会だより」を原則2か月ごとに発行していましたが、これを廃止しまして、ホームページにアルゼンチン関係の情報を載せていますので、ご活用ください。

2. E-mailアドレス

nippon@argentina.jpが、協会のE-mailアドレスです。

アルゼンチンに関わる興味ある情報やイベント案内を出来るだけタイムリーに会員の皆様にお伝えする為、E-mailアドレスを連絡頂いている会員の方にはメール通信を始めております。

このメール通信をまだ受信されていない方で、受信をご希望の方は、住所、氏名及びメール・アドレスを当協会メールアドレス宛 (nippon@argentina.jp) 発信、ご連絡下さい。次のメール通信から送信致します。

ご連絡頂きましたメール・アドレスは、当協会の情報伝達関係以外の用途には使用致しません。

ご質問その他お問い合わせある場合は、協会事務所宛お電話ください。

電話：03-6809-3681 担当；阿部

住所変更届けのお願い

ご住所が変わりました際は、早めに新住所を協会事務所にご連絡ください。

電話：03-6809-3681

FAX: 03-6809-3682

E-mail: nippon@argentina.jp

平成26年度 年会費納入のお願い

本年度(平成26年4月1日～平成27年3月31日迄)の年会費のお支払いがまだ未納になっている方が一部お見受けします。年会費のお支払手続きを済まして頂きますようお願い申し上げます。

個人正会員：1万円

個人賛助会員：5千円

本会報のデザイン、記事の無断転用はお断りします。

編集長よりの御礼

フロント・ページの写真は、ブエノスアイレス市にご在住の水上駐亜日本大使からご提供頂きましたフォトです。

執筆、原稿につきましては、彫刻家フリオ・E・ゴヤ様、島崎長次郎様(日本タンゴアカデミー名誉会長)にご協力頂きました。

スペイン語のサマリー(Resumen en castellano)は、イレーネ賀集さん(当協会理事)に作成して頂きました。

この場をおかりしまして、皆様のご協力に対し、厚く御礼申し上げます。

日本アルゼンチン協会会報 第65号 2014年12月19日発行

発行人 木島 輝夫(当協会副会長兼理事長)

編集長 加藤 勝巳(当協会常務理事)

編集発行 一般社団法人 日本アルゼンチン協会
〒108-0073

東京都港区三田2-7-16 協和三田ビル3階

電話：03-6809-3681

FAX：03-6809-3682

E-mail：nippon@argentina.jp

URL：http://www.argentina.jp

印刷 株式会社 アイデア・インスティテュート

